

温室効果ガス排出量/環境情報/社会情報 検証報告書

2026年4月23日

株式会社すかいらくホールディングス 御中

一般社団法人日本能率協会
サステナビリティセンター
上級経営管理者 前田 雅彦



1. 検証の対象及び目的

株式会社すかいらくホールディングス（以下「事業者」という。）が作成した算定対象における算定結果「2025年算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の2025年（2025年1月1日から2025年12月31日まで）の以下の温室効果ガス（GHG）排出量情報（エネルギー消費量情報を含む）、環境情報（水使用量）、及び社会情報（女性管理職比率、男女賃金比率、男性育児休業取得率、育児休業取得率）（これらを総称して以下、「算定情報」という。）に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会サステナビリティセンター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ1 GHG 排出量

- ・算定対象^{※1}における都市ガス、LPG、A重油、軽油、灯油、ガソリンの使用に伴って直接的に排出されるCO₂排出量
- ・算定対象^{※1}におけるフロンガス漏洩に伴って排出されるGHG排出量

2) スコープ2 GHG 排出量

算定対象^{※1}における電力及び熱の使用に伴って間接的に排出されるCO₂排出量

3) スコープ3 GHG 排出量

算定対象^{※1}の事業活動におけるスコープ3 カテゴリ1, 2, 3^{※2}において排出されるCO₂排出量

4) エネルギー消費量

スコープ1、スコープ2におけるエネルギー消費量及び原油換算値

5) 水使用量

算定対象^{※1}における総取水量、総排水量、総消費量

6) 女性管理職比率、男女賃金比率、男性育児休業取得率、育児休業取得率

算定対象^{※3}における事業者の正社員等^{※4}を対象とした値

検証の目的は、事業者の算定情報が算定方法^{※5}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成し算定情報を報告する責任は事業者であり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載された算定情報に対して限定的保証業務を実施して、結論を表明することにある。なお、事業者と当協会との間には、特定の利害関係はない。

2. 検証手続き

当協会は、GHG 排出量情報に関しては ISO14064-3:2019、環境情報、社会情報に関しては ISAE3000 に準拠して検証を実施し、以下の事項を実施した。なお、限定的保証業務は、合理的保証業務における手続きと比較してその種類は異なり、実施の程度は狭く、合理的保証業務ほどに高い水準の保証を与えるものではない。

- 算定報告書に記載の算定情報を決定するために用いられた情報に関する算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認を実施
- 株式会社すかいらくホールディングス前橋工場への訪問による GHG 排出量、水使用量の算定確認、供給されたエネルギーのモニタリングポイントの現場視察、株式会社すかいらくホールディングス本社への訪問による算定報告書作成に関わる主な担当者へのインタビュー、スコープ3、社会情報の根拠データの確認を含めた算定全体の確認、及び、株式会社フロジャボンの算定担当者へ GHG 排出量、水使用量算定に関するインタビューを実施
- 算定情報の正確性を確認するためのサンプリングによる根拠となる資料の確認

3. 検証の結論

算定報告書に記載された2025年の算定情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ1 ^{※6,7}	117,019
スコープ2 マーケット基準 ^{※8,10} / ロケーション基準 ^{※9,10}	236,317 / 240,068
スコープ1,2 合計 ^{※11} マーケット基準 / ロケーション基準	353,336 / 357,088
スコープ3 カテゴリ1 ^{※11}	844,972
カテゴリ1内訳	
・FLAG 排出量 ^{※12}	518,417
・非FLAG 排出量 ^{※12}	326,556
スコープ3 カテゴリ2	81,264
スコープ3 カテゴリ3	70,141

検証されたエネルギー消費量 (MWh)、及び、原油換算 (kL)			
エネルギー総消費量 ^{※11}		1,115,130 MWh	176,634 kL
燃料の総消費量 (非再生可能エネルギー源)		552,593 MWh	51,325 kL
電力の総消費量 ^{※11}		561,760 MWh	125,223 kL
エネルギー源別 電力の消費量	再生可能エネルギー源	19,634 MWh	4,377 kL
	非再生可能エネルギー源	542,126 MWh	120,846 kL
熱の総消費量 (非再生可能エネルギー源)		777 MWh	86 kL
エネルギー総消費量 ^{※11} (非再生可能エネルギー源)		1,095,496 MWh	172,257 kL

検証された水使用量 (m ³) ^{※13}		
総取水量 ^{※11}		7,636,121
水源別 取水量	地下水	380,785
	第三者の水源	7,255,336
総排水量 ^{※11}		7,530,474
放流先別 排水量	淡水の地表水	645,194
	第三者の放流先	6,885,280
総消費量		105,647

検証された社会情報 (%)	
女性管理職比率	15.3
男女賃金比率	72.6
男性育児休業取得率	35.8
育児休業取得率	70.4

NOTE:

※1：算定対象

株式会社すかいらーくホールディングス、及び連結子会社

※2：スコープ3の各カテゴリの概要

- カテゴリ1（購入した製品・サービス）：算定対象が購入した製品、サービス、及び、主要な間接経費を対象
玄米購買先の農家におけるCO₂排出量削減取り組みを踏まえた1次データを算定に反映
- カテゴリ2（資本財）：建設、購入した資本財を対象
- カテゴリ3（スコープ1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動）：使用した燃料、電力、熱を対象

※3：社会情報の算定対象

- ・女性管理職比率、男性育児休業取得率、育児休業取得率：※1と同じ
- ・男女賃金比率：※1からSKYLARK MALAYSIA SDN.BHD.、SKYLARK USA INCORPORATEDを除く

※4：事業者の正社員等：2025年12月31日時点在籍の正社員等（他拠点等への出向者を含む）が対象

※5：スコープ1,2,3、水使用量、社会情報の算定方法

「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン（ver.2.8）」、「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（ver.3.5）」、「国立研究開発法人産業技術総合研究所 IDEA Ver.3.5.1」、及び、事業者が作成した「算定手順書」

※6：都市ガスの排出係数

海外も含めて、国内のガス事業者別排出係数の代替値を使用

※7：フロンは工場及びトラックの空調、冷凍冷蔵機器を対象

※8：マーケット基準の電力の排出係数

- ・国内：電気事業者・メニュー別基礎排出係数を使用
- ・海外：台湾は2022 Electricity Carbon Emission Factorを使用、マレーシアはGrid Emission Factor (GEF) in Malaysia (2024)を使用、アメリカはeGRID Summary Tables 2023を使用

※9：ロケーション基準の電力の排出係数

- ・国内：一般送配電事業者別基礎排出係数を使用
- ・海外：※8と同じ

※10：熱の排出係数

熱供給事業者別排出係数を使用

※11：スコープ1,2合計、スコープ3カテゴリ1、エネルギー総消費量、電力の総消費量、総取水量、総排水量の値は各内訳の小数点以下も含めた合計値

※12：カテゴリ1の排出量の内訳として事業者が作成した「算定手順書」により算定

- ・FLAG (Forest, Land and Agriculture) 排出量：IDEA Ver.3.5.1 IPCC 2021 GWP 100a with LULUCFにより算定
- ・非FLAG 排出量：カテゴリ1の排出量からFLAG 排出量を引いて算定

※13：排水量が計測されていない拠点は、取水量と同量が全て排水されるとして算定

4. 当協会の独立性と品質管理

ISO14065:2020に適合する包括的なマネジメントシステムを当協会は導入し、維持している。これは、国際会計士倫理基準審議会による品質マネジメント基準1、及び、誠実性、客観性、職業専門家としての能力と正当な注意、守秘義務、及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく独立性等の要件を含む職業会計士の倫理規定における要求を満たすものである。

以上